

IR ニュース



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

2021年1月 <第9号>

巻頭言

福山市出身の高校生の動向

—過去5年間の大学進学率と本学入学者のデータから—

昨年、新型コロナウイルス感染症が拡大し、大学を取り巻く環境も大きく変わりました。しかし、多くの大学が、感染の拡大防止に向けた徹底した取組みと、学生の学修機会の確保との両立を達成してきました。本学でも、LMS等を利用した遠隔授業と課題提出等が一気に進み、前期の授業評価アンケートからも、「何度でも動画を見直すことができる」「遠隔授業であれば緊張せずに質問できる」という良い面が現れ、そのことで理解が深まったという感想が多く見られました。

その反面、学生との対面での指導時間が少なくなったり、一緒に研究を計画して実験したり、学んだ知識・技術を社会に出て役立てる活動は激減しました。年が明けてそのような思いが深まる中、今年から導入された大学入学共通テストが予定通り実施され、880名の志願者を受け入れました。多くの高校生が目標に向けて2日間奮闘する姿を見て、やはり大学キャンパスでの学修機会の確保は重要だと思いました。

3ページで紹介する「オープンデータの活用」では、福山市の高校生の過去5年間の大学進学率と福山大学への入学者数を男女別に示しました。福山市の高校生の大学進学率は概ね全国平均よりも高く、約60%を維持しています。また、女子・男子ともに入学者は2015年から増加し、特に女子の入学者は5年前に比較して約1.3倍となっています。近年、女子学生の増加と活躍が目立っていますが、地元の大学で学び、地元で活躍の場を持ちたいという女子高校生が増えていることが分かります。来年度からは、11階建ての未来創造館がランドマークとしてオープンします。この傾向にさらに拍車がかかることを期待しています。

学長補佐 (IR 担当) 兼 IR 室長 平 伸二

IRer 募集中

私たちと共にデータ分析にご協力いただける方を募集中です。

目次

巻頭言	1
活動報告	2
IRにおけるオープンデータの活用	3
IRer ミニ講座(4)	3
お知らせ・イベント	3

2020年11月14日(土)～15日(日)にMJIR2020第9回大学情報・機関調査研究集会が開催されました。ビデオ会議システムZoomによるオンライン開催となりました。研究集会では2日間で9つのテーマ34件の発表がありました。高等教育マネジメント、研究支援、教育成果の評価、学生調査、学生支援と幅広い領域のテーマが取り扱われました。またオンライン授業の実践や学生調査などにはコロナ禍の影響によるものも含まれていました。本項では視聴したセッションの中から発表内容を紹介します。

○学生支援

・「日本における中退防止施策の類型化」 白鳥成彦(嘉悦大学)

日本で行ってきた高等教育における中退防止施策をアメリカの中退防止施策と比較し、日本の中退防止施策について類型化および分析を行われたことについての発表でした。施策を受ける側と施策を行う側の2軸に分け、さらに、それぞれの事例を「教学」、「社会・生活」、「経済」を切り口に分析されていました。中退防止施策は、個別対応から組織的な対応に向かっているのですが、そのためにはデータ統合等の組織としてのインフラを整える必要があるとの報告でした。

・「入試形態と入学後の学修状況の関連性」 石橋嘉一(横浜商科大学)、田尻慎太郎(北陸大学)、川本弥希(東京工業大学)

入試形態と学修状況の関連性についての検証を試行されたことについての発表でした。入試形態を8群に分類して、「4年間の通算GPA」、「4年間のGPA推移」、「成績下位層15%の特徴」について結果を分析されていました。そして、他の年度の分析結果でも同様の傾向が見られるようであれば、特定の入試形態における成績下位層を早期に抽出することができれば、学修支援を早期化し、サポート体制を充実化できる可能性を示唆したとの報告でした。

○学生調査

・「アンケート調査の二次分析による追加的知見の抽出と調査プロセスの改善—新型コロナウイルス対応に関する学生アンケートの事例から—」 西出 崇(小樽商科大学)

IR部門とは別の部署が作成したアンケート調査を分析し改善方法を示された発表でした。アンケート調査の必要性は学内に認識されているが、調査設計や分析に問題があり、結果が十分に活用されていない。その要因の一つとして、調査設計や分析の専門的知識の不足を指摘され、IR部門による専門的支援の必要性が求められていると報告されました。

○オンライン授業

・「オンライン授業におけるSDGs(持続可能な開発目標)に関する大学生の意見分析 オンラインホワイトボード(Miro)を活用した双方向授業の実践」 杉原 亨(関東学院大学)

SDGsをテーマにして、オンラインホワイトボード(サービス)Miroを活用したオンラインでのワークを分析した結果と、大人数(50人)のオンライングループワークの実践についての発表でした。授業実践の成果は、「実践事例の共有」と「学習成果の共有」がなされたこと、問題点は、「受講生の操作スキルに差が出ていたこと」、「Miroの機能についてさらなる実証が必要であること」を報告されました。

・「コロナ禍における私立中規模大学での遠隔授業の実践—質保証のための方法の構築と教職員へのテクニカルサポート—」 高松 邦彦、野田 育弘、溝越 祐志、伴仲 謙欣、中田 康夫、大森 雅人(神戸常盤大学)

コロナウイルス感染拡大防止のため学内の立ち入りが禁止になり、「オリエンテーション」や「授業開始の大幅な延期」に伴う「遅れ」と、「学生への在宅での学修を支援」をするために、「遠隔授業を早期に開始させることとなったこと」、学生の「情報機器の保有状況」と「通信手段の現状」を踏まえ、「オンデマンド型の遠隔授業を実施した」との内容でした。実施期間中は遠隔授業を進めながら問題を見つけ、解決しつつ運用をしていく状態であったと報告されました。(記谷 記)

参考:「第9回大学情報・機関調査研究集会 論文集」 令和2年度MJIR2020実行委員会

IRにおけるオープンデータの活用

国や地方公共団体がオープンデータとして、人口統計や公共施設の利用情報などをインターネット上に公開しております。この項では「e-stat(総務省)」および「統計ふくやま(福山市)」を使い、IRにおけるオープンデータの活用例を示します。

図1は福山市と全国の高校卒業生の大学進学率の推移を示すグラフです。

2015年から2019年の間はほぼ横ばいです。進学率は全国の男性が他より低いです。高校卒業生の半数以上は大学へ進学しています。福山市の高校卒業生も60%近くが大学へ進学しております。

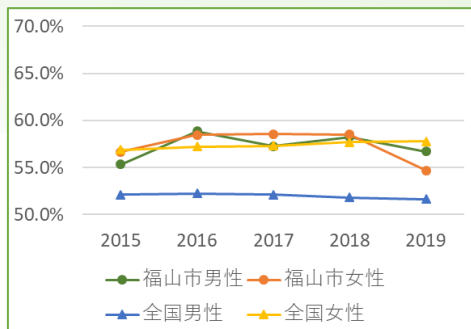


図1 高校卒業後の大学進学率の推移

図2は福山市出身の大学進学者と福山大学新入生の推移を示すグラフです。左側が男性、右側が女性の数を示しています。2020年については大学進学者のデータは公表されておりません(2021年1月現在)。大学進学者のうち男性で約20%、女性で約10%が本学を選んでいる計算になります。経済状況が停滞すると大学選択の地元志向が進むといわれておりますが、この結果からは顕著にあらわれているとはいえないと考えられます。(記谷 記)

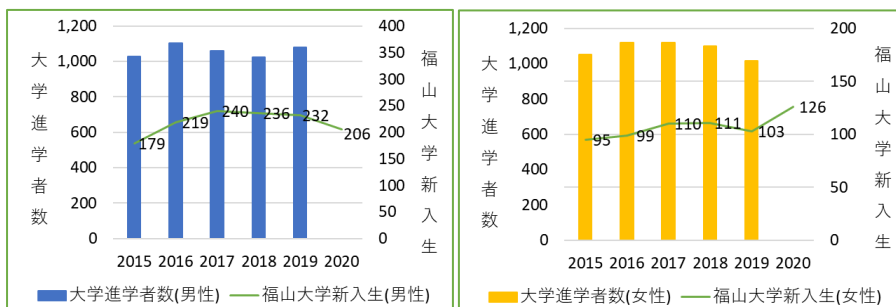


図2 福山市出身の福山大学新入生と大学進学者の推移

IRer ミニ講座 第4回 データウェアハウス

データウェアハウスは、様々な業務システムのデータベースからデータを集積し、同じ意味をもつデータは横断的に統合し、データの主題ごとに整理し直して蓄積するデータベースのことです。

意思決定に活用するため、分析の目的別に作られること、過去のデータを削除せずそのまま保持することなどの点で、日々使用する業務システムのデータベースとは異なります。

キャビネット Karin はデータの集積と情報活用のデータベースとして、データウェアハウスの役割を担っています。今後も IR データ活用の普及を目指して改善を進めていく予定です。(記谷 記)

参考:「大学の IR Q&A」中井俊樹・鳥居朋子・藤井都百(編)

お知らせ・イベント

■大学 IR 入門講座「明日から"すぐ"使える大学 IR」～IRer を目指すあなたへ～

主催:株式会社ビズアップ総研
講師:森 雅生 東京工業大学教授
日時:2021年3月9日(火)13:00～16:30

会場:Zoomを使用したオンラインセミナー

参加費:無料

事前の申込みが必要です。以下のホームページより各自でお申し込みください。

<https://www.bmc-net.jp/seminar/2021/021/>

編集後記

2021年も昨年につづき、コロナ禍の影響が続きます。編集委員各氏は、全学の安全衛生対策と学修活動支援、学修環境支援の業務に継続して取り組んでおります。今後、施策の状況や成果の分析をIRで示す機会に向けて準備を進めてまいりたいと思います。

IR ニュース <第9号>

2021年 1月末日発行

編集 IR 室
編集委員 平 伸二
片桐 重和
記谷 康之

ご意見・ご要望がございましたら下記までご連絡ください。

Email: irwg@fukuyama-u.ac.jp